



教科書を学び，教科書で学ぶ

深澤邦洋

Compass English Communication II は，各課 8 回の授業で学習を進めていくことを想定して構成されていますが，私は，教師の目から見て，生徒の意見を引き出しやすいと思われる題材，しっかり理解した上で表現力を高めさせたいと思われる言語材料などに応じて，弾力的に時間配分して授業を構成しています。また，各回の授業は，「聞く・話す・読む・書く」という活動のどれかに比重を置いて展開しています。「主体的に考え表現する力を伸ばす」を意識して授業計画を立てると，結果として「4 技能をバランスよく伸ばす」につながるのではないかと考えています。

◀・知っている（はず）を聞く

“Takuya’s Adventure in Canada” (L2) は，留学した卓也がカナダの多文化社会に触れ，現地の高校の授業を体験することで，自分たちの社会に関心を持つことや言葉でコミュニケーションすることの大切さを学ぶ様子を描いた説明文です。

この課の TT 授業では，カナダ出身の ALT が州ごとの特徴や見どころ，教育制度など，本課で紹介されている以上の情報を紹介してくれました。「聞く」に比重を置いた学習です。生徒は ALT による英語での説明は初めて聞くのですが，実はカナダ大使館発行の『カナダ留学ガイド』を事前に読んでいて，内容の大半はすでに知っている（でもほとんど忘れかけている）ものでした。

聞いて理解する訓練の初期段階では，既知情報を英語で聞いて理解できたという達成感を演出することが関心や意欲の向上に役立つと思います。

◀・読んだ後に話し合う

“Architect in Action” (L6) は，国内外で活躍する安藤忠雄さんの，建築家としての哲学，職業選択の経緯，影響を受けた世界の建築，自然環境への思い，若者へのメッセージが書かれた，自伝的エッセイです。自分自身の将来の生き方や職業について考えたり英語で話し合ったりするのに適した題材ですが，私は「理想の住宅」というテーマに絞って，授業を展開してみました。

まずは，インターネットを使って様々なデザインの住宅画像を見ながら，デザイン名や分類などの語彙を増やし，次に ALT によるスピーチ（モデル提示）を，画像を見ながら聞いて理解します。



If I could have a house anywhere, I would like to live in the countryside but near the city. I like living in quiet places, but being near a city would be convenient.

I would like to live in a traditional Japanese style house, but with thick walls to keep warm. I would also like to have a big garden and a koi pond. I think that my whole family could feel relaxed.

(73 words)

その後，5～6 名でグループを作り，1 人は営業マン，1 人は住宅デザイナー，残りは施主家族となり，営業マンは施主家族に① Where do you want to live, and why?, ② What style of house

do you want to have?, ③ As a special equipment, what do you want? を問いながら、やりとりを書き留めます。デザイナーは施主家族が語る希望を元に perspective drawing (外観パース) を描きます。最後に、施主家族代表が、営業マンのメモとデザイナーの絵を使ってクラス全体に show and tell, という展開です。

グループワークにおけるやりとりで、事前に語彙を学習してあるので①②まではスムーズに進みますが、③は、施主家族内の要望も様々で、その場で和英辞典を引きながら、solar panel, basement, swimming pool, penthouse などの語彙を見つけ出していました。また、選んでいいのは1つだけという条件にしたので、それなりに説得力のある理由を語り合っ合意形成に至るのにも苦労していました。

ペアやグループで、英語を使って活動する場面を設定する際、どんな話題なら話しやすいか、どういう展開なら進めやすいかなどに配慮すると、「主体的に考え表現する力を伸ばす」学習環境が整うと思われます。要は、発問の工夫が肝心ということなのです。

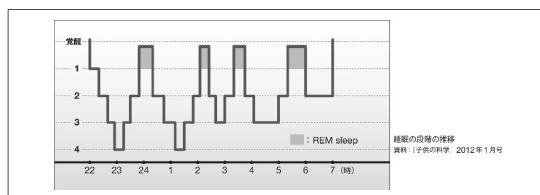
◀・図表に整理して文章再構築

“Sleeping and Dreaming” (L7) は、睡眠について、人間と動物の違い、そのメカニズム、夢との関係、快適に眠るポイントなどを科学的に論じた説明文で、「的確に理解し、適切に表現する力」を鍛える好材料です。

「的確に理解」については、各パート冒頭の lead question に対応した記述を検索し、表や図の形式で整理させました。一方、「適切に表現」については、自分で整理した図や表を使って、まとまりあるパッセージを再構築させました。

例えば Part 2 では、「睡眠にはどのような段階がありますか」という lead question が示され、本文としては、第1パラグラフの Sleep has five stages ... Different stages of sleep are repeated

throughout the night. という一文に続き、睡眠の5段階が紹介されていますが、うっかりすると、本文で紹介されている順番に第1段階→2→3→4→REM→1→2...と誤解してしまいます(正しくは下図のように1→2→3→4→3→2→REM→2...という stroke が繰り返される。)
「的確に理解」するために、教科書に掲載された図を参照しながら、別途、流れ図に key phrases を書き留めて、改めて短い文章にまとめます。



1. light sleep (easy to wake up)
- ↓
2. deep sleep (body ... relax, lasts 15 mins)
- ↓
3. deeper sleep

◀・タスク活動につなげる準備

life-like task を設定して「教科書で学ぶ」ためには、1文の分析的な理解、新出語句や文法などの応用練習、英問英答、反復音読など「教科書を学ぶ」過程も疎かにはできません。

各パート見開きの右ページの内容理解やターゲット文法を確認する Answer it! や Check it!, 別冊の『学習ノート』, 指導用 CD-ROM 収録の「授業プリント集」, 「評価問題集」などに取り組みさせる他、プレゼンテーションソフトを利用した自作の提示材料を使っています。自作と言っても、テキストや音声は、指導用 CD-ROM や音声 CD の素材にアニメーション効果でちょっと加工するだけです。比較的容易に作成できます。

各課題材に応じたタスクを設定すること、デジタルコンテンツを上手に活用することが、「教科書で4技能をバランスよく育てる」につながるのではないのでしょうか。

(ふかざわ く にひろ・静岡県立駿河総合高等学校教諭)